

第 50 回 SSN 勉強会

午前中「千葉大学構内と薬用植物園の観察」 午後「雨の日に室内で観察する手法を考える」

庄子 淑子（四街道市）

日時：2010年12月9日（木）9時50分～15時

講師：午前 栗山忠俊・盛一昭代さん、午後 山田益弘さん（SSN 担当）

場所：千葉大学西千葉キャンパス、千葉市轟公民館

参加者：浅間、伊藤（純）、大原、大山、川北、河添、栗山、後藤、佐口、佐藤（一）、

庄子、末永、田井中、高橋（多）、高山、晝間、

細谷、松本（美）、盛一、

山田（益）、吉田（祥） 計 21 名

晴れて暖かい冬の日、第 50 回の記念すべき SSN 勉強会が開催されました。

午前には2班に分かれ、盛一さんが千葉大学構内の自然観察、栗山さんが薬学部附属植物園で薬草となる植物観察の講師をしてくださいました。構内ではイチヨウの落ち葉の上を歩き銀杏を探し、ユリノキの種がまるで花のように残っていて一枚ずつ剥れて飛ばされること、サイカチの長い実、アオギリにあった植物の癌、苔玉の作り方、ソメイヨシノの謂れ、またヒマラヤスギはマツ科で明治12年頃イギリス人が種を持ってきて蒔いたのが始まりであることなど、興味深いお話を聞きました。さらにビワ、クスノキ、トウカエデ、トウネズミモチ、カシワ、メタセコイア、ケヤキ、ギンドロヤナギ、シナヒイラギ等々の花、樹形、樹皮、葉、実、種を観察しました。

その中でギンドロヤナギは初めてで葉裏が白くカエデのような葉であることが印象的でした。また、サイエンスプロムナードにてヒガンバナ、ハダカデバネズミの展示説明も受けました。薬草園では日本で最初の薬は因幡の白ウサギで知られるガマの穂であること、「草を楽しむ、草で楽になる」漢方は悪いところだけを治すこと、マオウのように発汗作用（緑の部分）と止汗作用（茶色の部分）と相反する作用を持っていることがあること、漢方薬に副作用がないわけではないこと、めんげん現象（症状が改善する時に起こり得る発疹など：好転反応）があること、またカギカズラは葉腋に鈎曲する木質化した鈎刺の部分だけを薬にすること等、薬草に関する興味深いお話を聞きました。身近なジュズダマに似たハトムギ、ハアザミ、ダイダイ、ネギ、アスパラ、オモト、ジキタリス、コブシ等もあり、夫々の薬効などについて説明して頂きました。

午後は轟公民館で4グループに分かれ、室内での冬の活動を中心に雨の日の観察手法のアイデアを出し合い楽しく交流しました。

ランの花の花粉塊を綿棒で運ぶことや、イタドリで茎で笛を作ること、色々な小枝で鉛筆を作り、硬さ、色、匂い等を感じることを、折り紙で種の模型を作り、種の旅の説明をすること、校舎内のクモを探し、網・食べ物等について話し合うこと等々、種々おもしろそうなアイデアが出され、大変興味深く参考になりました。

